

埋文やまがた



2003年6月30日
第26号



本紙を彩った10年の軌跡

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3161 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(☎) FAX 023-672-5586

ホームページ: www.yamagatamaibun.or.jp

メールアドレス: kenkyuuka@yamagatamaibun.or.jp

平成15年度の事業概要

1 発掘調査事業

今年度は、県農林水産部・県土木部・県教育委員会・県企業局・国土交通省からの依頼を受け16件の発掘調査を実施しています。また、17件の整理・報告書作成も行っています。



No.	遺跡名	市町村	時代区分	種別	調査期間
1	堀端遺跡	長井市	奈良・平安	集落跡	5/7~7/30
2	埴ノ上遺跡	長井市	奈良・平安	集落跡	5/7~7/30
3	茗ヶ山遺跡	松山町	平安	集落跡	7/1~8/29
4	小平4遺跡	八幡町	縄文	集落跡	5/6~6/20
5	向河原遺跡(第5次)	山形市	平安	集落跡	6/16~10/10
6	梅野木前1遺跡	山形市	平安	集落跡	8/4~11/7
7	山形城三の丸跡(第2次)	山形市	近世	城館跡	5/12~9/5
8	北向遺跡	山形市	奈良・平安	集落跡	5/7~7/25
9	米沢城跡(第3次)	米沢市	中世~近世	城館跡	5/7~6/6
10	山形西高敷地内遺跡(第7次)	山形市	縄文~平安	集落跡	10/27~11/12
11	高蹴遺跡	長井市	縄文	集落跡	6/9~10/15
12	川前2遺跡(第2次)	山形市	古墳・奈良・平安	集落跡	5/6~10/31
13	助作遺跡(第2次)	鶴岡市	古墳	集落跡	6/16~8/8
14	百刈田遺跡	南陽市	縄文	集落跡	5/7~10/9
15	飛泉寺跡遺跡(第3次)	小国町	中世~近世	集落跡	5/12~7/4
16	西山遺跡	藤島町	奈良・平安	集落跡	8/18~9/19

No.	遺跡名	市町村	業務内容
1	小平2・3遺跡	八幡町	報告書作成・刊行
2	泉森竊跡, 坂ノ下遺跡	酒田市	報告書作成・刊行
3	泉森南竊跡	酒田市	報告書作成
4	西向遺跡	鶴岡市	報告書作成・刊行
5	高瀬山遺跡(ハイウェイオアシス)	寒河江市	報告書作成
6	小田島城跡	東根市	報告書作成・刊行
7	大明神遺跡	山形市	報告書刊行
8	高瀬南遺跡, 菖蒲江1・2遺跡	天童市	報告書作成・刊行
9	達磨寺遺跡	中山町	報告書作成・刊行
10	坂ノ上遺跡, 長者屋敷遺跡	山形市	報告書作成
11	高瀬山遺跡(1期)	寒河江市	報告書刊行
12	石田遺跡, 萩原遺跡	山形市	報告書刊行
13	服部遺跡, 藤治屋敷遺跡	山形市	報告書刊行
14	馬洗場B遺跡	山形市	報告書刊行
15	渋江遺跡	山形市	報告書刊行
16	板橋1・2遺跡	天童市	報告書刊行
17	的場遺跡	天童市	報告書作成・刊行



2 研究・普及事業

埋蔵文化財に関する研究と保護思想の普及を目的とした活動を行います。

(1) 調査説明会

発掘調査の成果を広く公開するために、調査を行った遺跡について現地で説明会を開きます。あわせて出土した遺物の展示も行います。

開催日時などは、センターのホームページのほか、新聞・市町村広報誌などでお知らせします。



(2) 発掘調査報告会

11月24日(月)、山形市のビッグウイングにおいて、15年度の発掘調査報告会を開催します。県内で行われた発掘調査の成果を写真やスライドなどを使い、報告します。出土した遺物の展示もあわせて行います。

(3) 広報誌・年報の発行

広報誌「埋文やまがた」を年3回刊行し、県内の学校・公民館・図書館などに配布しています。

調査成果など、センターの1年間の活動の概要をまとめた年報を、翌年度初めに刊行します。

(4) 調査報告書の刊行

調査・整理が終了した遺跡の報告書を順次刊行します。

(5) 研究紀要の刊行

研究紀要第2号を刊行します。



(6) 出土文化財の保護と活用

当センターでは出土した文化財を活用するため次のようなことを行っています。

※特別収蔵室や整理作業の様子を見学することができます。

※小・中・高等学校にセンターの職員を派遣して、学校教育への支援・協力などを行います。

〈出前授業〉

※希望により、出土文化財の展示会などへの貸し出しを行います。



これらの詳細についてはセンターまでお問い合わせください。

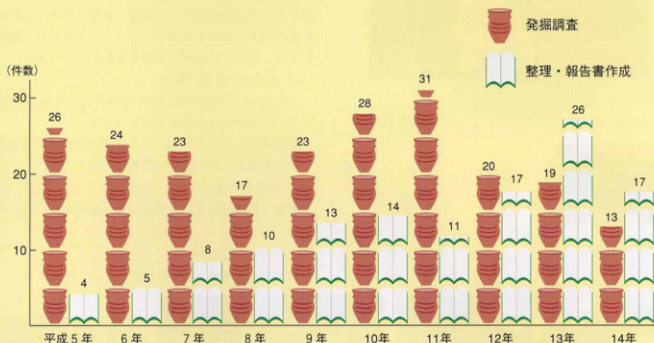
10年を振り返って!

当センターは平成5年4月1日に設立され、今年4月でちょうど10年が過ぎました。この間、遺跡の発掘調査をはじめ、埋蔵文化財に関する各種事業に取り組んできました。「埋文やまがた」においても平成6年度の創刊号以来これまで25号を数え、広報の一環として埋蔵文化財情報を、わかりやすく多くの皆さんにお届けしてきました。

そこで今回は、これまで刊行してきた本誌をもとにして、設立から今日に至るまで10年の“足跡”をたどってみたいと思います。

調査遺跡数の移り変わり

発掘調査件数は平成11年度をピークに、近年減少の傾向にあります。これに対比して、報告書作成のための整理件数が増大していることがわかります。



平成5年度

この年の10月に現在の場所(上市市弁天)に移転しました。舟形町西ノ前遺跡から出土した縄文時代の土偶が復元された結果、日本最大であることがわかり、また村山市宮の前遺跡では人面付土器(写真右)が出土して話題となりました。



平成6年度

本誌創刊号を発刊しました。この年は、山形自動車道建設にかかる遺跡数が急増しました。右の写真は西川町山居遺跡で見つかった縄文時代中期の住居跡および炉跡です。



平成7年度

高速道建設により、大規模な発掘調査が続きました。寒河江市高瀬山遺跡では4基の古墳が見つかりました。この年から本誌は、年度3回の刊行となりました。



平成8年度

10月に山形市内で「全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会」を開催しました。前年の阪神大震災をうけて、災害をテーマにした講演や研修会が行われました。



平成9年度

この年の調査で、寒河江市高瀬山遺跡から縄文時代後期～晩期につくられたと考えられる木組みと石組みの遺構が同時に発見されました。全国的にも珍しく、湧水地に位置することから水辺の遺構と呼ばれています。



平成10年度

この年の6月30日に、西ノ前遺跡出土の「縄文ビーナス」(写真左)をはじめとする土偶48点が、国の重要文化財に指定されました。



平成11年度

普及活動の一環として、小・中学校等へ職員を派遣しての「出前授業」をはじめました。写真左の「山形県埋蔵文化財発掘調査報告会」は、この年から毎年行うようになりました。本誌では県内の遺跡を紹介する“遺跡散歩”の連載がスタートしました。



平成12年度

遊佐町小山崎遺跡から、湿地を渡るための石敷き舗道が出土しました。いっしょに縄文時代後期ごろの土器が見つかっており、“日本最古の舗道”として注目されました。



平成13年度

5月にホームページを開設しました。12月には「縄文やまがたフェスティバル」を県教育委員会と当センターが主催して開催しました。縄文時代の生活を体験できる5つの部門を設け、発掘調査報告会と併せて1,000人を超える来場者がありました。



平成14年度

縄文フェスティバルや出前授業での活動などが注目されたためか、放送局の取材を受けて活動の様子がテレビ放映されました。この年の出前授業数は18件にもなりました。また、設立10周年を機に「研究紀要」を発刊しました。



川西町 下小松古墳群

山形県の南部、川西町・^{たかねやま}眺山の丘陵地帯に下小松古墳群は位置しています。山の東側尾根上に造られ総延長は約2.5kmになります。古墳群の東側には一面に水田が広がり、米沢盆地を一望することができます。

古墳群は北から、陣が峰・永松寺・薬師沢・鷹待場・小森山・^{にげ}沢の6つの支群からなります。昭和60年の調査により円墳・方墳・前方後円墳あわせて約200基の古墳が確認されています。その大多数は約8～13mの円墳で、最大のものでも前方後円墳で全長約33mと、各古墳の大きさはそれほど大きくはありません。しかしそれらは互いの裾を切りあうほどの密度の高さで築造されています。なかでも小森山支群は前方後円墳が数多く造られたことが特徴で、この支群だけで山形県内に存在する前方後円墳の約半数を占めています。

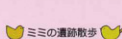
これまでに数基の古墳について発掘調査が行われ、木棺と鉄剣や刀子、銅鏡、埴輪、耳環、鋤先、土器などの副葬品が出土しています。それらの調査により支群ごとに古墳の築造年代に時期差があることがわかりました。4世紀の初頭とされる陣が峰支群をはじめとして、薬師沢支群が5世紀初頭、小森山支群が6世紀に造られたと推測されています。

また、この古墳群の南東を流れる犬川を挟んだ場所に^{あまの}天神森古墳（川西町フレンドリープラザ敷地内）があります。全長約75mの前方後方墳で4世紀後半のものとして推測されています。

下小松古墳群は平成11年に国指定史跡として登録され、現在はその立ち入りを制限して現況の保存が図られています。

（吉田江美子）

Illustration © Kurosaka Hiromi



下小松町 「男装の麗人」



下小松古墳群を連なる眺山

前方後円墳
(小森山支群)



発掘調査の様子

資料提供：川西町教育委員会



編集後記

既刊の本誌をもとにして、これまで10年の歩みを振り返ってみました。発足当初は調査事業が主でしたが、近年はこれと並行して啓蒙・普及事業が目立つようにもなりました。「10年ひと昔」と言われますが、これから先10年の間にはどのような出来事があるのでしょうか？ なお一層の努力を重ねていきたいと思います。

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただけます。

電話 023(672)5301 (代表)